

授業科目：看護の統合実習

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>1 病棟管理・看護管理の実際について理解できる。</p>	<p>1) 病棟管理者の役割と業務 (1) 病床管理 (2) スタッフ・看護学生の教育指導 (3) 安全管理・物品管理 (4) 他部門との連絡調整 (5) 看護部組織の中での報告、連絡、調整の実際 (6) 職員の教育と配置 (7) 勤務時間管理の実際 (8) 職員の健康管理</p> <p>2) 病院組織における看護管理 (1) 病院組織としての機能 (2) 看護理念 (3) 看護方式 (4) 病院看護機能評価 (5) 退院調整と地域連携における看護の実際</p> <p>3) 夜間帯の病棟管理、業務管理、業務内容 (1) 夜間の病棟管理体制 (2) 夜間体制の業務内容 (3) 夜間の患者の安全確保 (4) 夜間の記録・報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習初日に病棟へ挨拶 ・病棟師長からの説明、管理業務の見学を通して学ぶ。 ・看護管理について講義を受ける。 ・「看護管理・病棟管理」についてカンファレンスで検討する。
<p>2 看護チームのコーディネーターおよびチームメンバーの役割を理解できる。</p>	<p>1) コーディネーターの役割と業務の実際 (1) 医師への報告・連絡調整 (2) チームおよびスタッフへの連絡調整 ①患者状態の把握 ②スタッフの業務の把握 (3) 病院内外の部門との連絡調整 (4) 入院・退院・転科・転棟に関わる手続き (5) 患者、家族との連絡調整 (6) 他部門との連携(放射線・薬剤・栄養・リハビリテーション・事務)</p> <p>2) チームメンバー間の協力・行動調整 (1) 担当看護師の援助の優先度の判断、調整方法 (2) 看護業務見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター業務の見学やメンバー業務の見学・一部実施を通して学ぶ。 ・指示受け場面を通じて、医師の指示がどのように実施されていくのかを理解する。 ・コーディネーターやメンバーへの報告、連絡、相談の必要性を理解する。 ・時間管理、ケアの優先順位の決定、予期せぬ出来事への対応について理解する。
<p>3 受持ち患者の全体像を把握した上で、複数の援助計画の立案ができる。</p>	<p>1) 受持ち患者の看護 (1) 受持ち患者の理解 ①病態生理、ADL、治療・処置、看護 ②全体像の把握</p> <p>2) 行動計画の立案・実施・評価 (1) 看護の実践 ①受持ち患者に必要な複数のケア ②一人で実践可能なケアの拡大 ③スタッフメンバーの協力を得て実践可能なケアの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・援助の根拠を理解し、患者の疾患の理解や状態などを踏まえて患者の全体像を記述する。 ・優先順位とタイムマネージメントを考えて援助計画を立案する。 ・担当看護師に計画を発表し、調整していただく。

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>4 複数患者の援助の優先順位の考え方や時間管理の必要性を理解し実践ができる。</p>	<p>1) 優先順位と時間の管理 (1) 患者の日課の確認と希望の有無 (2) 予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整 (3) 適時・適切な人への報告・調整 (4) 適切な判断に基づく援助の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの一員として報告・連絡・相談する。 ・チームカンファレンスに参加し、カンファレンスの意義を考える。 ・診療の補助技術に関しては、積極的に実施する。 ・点滴管理や援助の際の留意点が明確か確認する。
<p>5 夜勤体制導入時間帯の体験を通して、患者理解を行い、看護業務内容を深めることができる。</p>	<p>1) 夜勤体制の業務内容の理解 (1) 日勤帯との違い ①担当患者数 ②優先順位 2) 夜間の日常生活援助の理解 (1) 配膳・食事介助・食後の観察 (2) 洗面介助 3) 面会時間帯の患者の反応 (1) 家族面会時の患者の観察 (2) 家族面会がない場合の反応 4) 夜間の患者の安全確保の実際 5) 夜間の記録・報告の特徴 6) 夜間の病棟管理体制の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間実習時間：12:15～21:00 ・受持ち患者のいるチームで夜間業務を見学する。 ・日中と同じケアで、手順書を作成している場合は一部援助を行う。日常生活援助技術は看護師の指導のもと実施する。 ・グループワークや実践の見学を通して、夜間の患者の状況、夜間の患者の心理、夜間の看護のための情報収集は何か必要か理解する。 ・当直師長、当直医師の巡回時の報告場面を見学する。見学できない場合は、報告内容の説明を受ける。 ・カンファレンスで情報共有し、学びを深める。
<p>6 実習の学びを通して、看護について再考し、自己の課題を明確にすることができる。</p>	<p>1) 保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能とは 2) 対象に必要な看護実践とは 3) 実習目標に対する自己の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスや実践活動外学習において、これまで臨地実習で受け持った患者への看護実践や学びを振り返り、対象に必要な看護実践力について考え、自己の課題を明確にする。